

令和8年度
シラバス

教科・科目	保健体育・保健	単位数	1
-------	---------	-----	---

学年・クラス	1学年（ 必修 ・選択）	担当者	金澤 駿吾
使用教科書	大修館 現代高等保健体育 改訂版		
使用副教材	なし		

目 標

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を身につける。

授業の内容・進め方

授業の内容：健康安全について知識・理解を深め、毎時間のワークシートのまとめやグループワークでの意見を交換することなどを通して健康課題について考えていきます。
 考查：前期末・後期末考查の2回実施

評価規準（観点別達成目標・評価項目）

評価の観点	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
観点別達成目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
評価の割合	1	1	1

	評価の観点	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価項目	定期考查（年2回：前・後期末考查）	◎	○	△
	ワークシート	○	◎	△
	プレゼンテーション（作成・発表）	○	◎	◎
	課題提出（適宜実施）	○	△	◎
	授業への参加の様子	△	△	◎

- ・ 観点別評価 3つの 観点別に各評価項目の達成率でA・B・Cを決定する。
 A：十分満足できる B：おおむね満足できる C：努力を要する
- ・ 評価・評定 観点別評価から総合的に成績（評価・評定）を決定する。

指導計画及び中単元別評価基準

学期	月	単元	学習内容	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	4	現代社会と健康	健康の考え方と成り立ち 私たちの健康のすがた	・国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること。また、健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていることを理解している。	・現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。	・現代社会と健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。
	5					
	6		生活習慣病の予防と回復	・健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であることを理解している。		
	7		がんの原因と予防 がんの治療と回復 運動と健康 食事と健康 休養・睡眠と健康			
	8		喫煙と健康 飲酒と健康 薬物乱用と健康 プレゼンテーション（作成・発表）	・喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になること。また、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることを理解している。		
9						
前期期末考査						

学期	月	単元	学習内容	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後期	10	現代社会と健康	精神疾患の特徴 精神疾患の予防 精神疾患からの回復	・精神疾患の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であること。また、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることを理解している。	・現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。	・現代社会と健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。
	11		現代の感染症 感染症の予防 性感染症・エイズとその予防	・感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを理解している。		
	12		健康に関する意志決定・行動選択 健康に関する環境づくり	・健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わることを理解している。		
	1	安全な社会生活	事故の現状と発生要因 安全な社会の形成 交通における安全 プレゼンテーション（作成・発表）	・安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であること。また、交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わること。交通事故には補償をはじめとした責任が生じることを理解している。	・安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。	・安全な社会生活についての学習に主体的に取り組もうとしている。
	2		応急手当とその基本 日常的な応急手当 心肺蘇生法	・適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。また、応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることを理解しているとともに、心肺蘇生法などの応急手当を適切に行う技能を身に付けている。		
	3					
後期期末考査						